

## ニュースレター

# 「SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり」

## 【開催報告】 SDGs 学生フォーラム in ちば 2022

日時：2023年3月12日(日) 13:30~16:30  
会場：千葉市生涯学習センター・オンライン  
参加者：会場39名 オンライン11名  
主催：NPO 法人環境パートナーシップちば  
協力：学生団体おりがみ 千葉大学環境ISO 学生委員会  
ち～ば国際協力ネットワーク CIEN  
後援：千葉県 ESD 活動支援センター ESD-J



地域活動を展開している団体は会員の高齢化、若者は地域をよく知らない、活動しようとしてもどこに行けば良いのか分からないなど課題があります。当会は若者とNPOを繋ぐ一つとして、SDGs 学生フォーラムを昨年度から開催し、今年は2回目となりました。

昨年との違いは、フォーラムの企画運営を協力団体の学生さんと準備してきたことです。学生×NPOの化学反応は、フォーラムに参加していただいた方に感じてもらえたと思います。

I部は9つの団体紹介と意見交換、II部は会場のみで交流会を開催しました。グループごとの話し合いでは、相手を知ること、一緒に何か出来るかな！と繋がれそうかな！など、楽しい会話が弾みました。

フォーラムの最後には、まず学生さん同士つながりましょうと提案。早速SNSへ登録が進みます。

参加者の笑顔、楽しかった！等をお聞きして、主催者としては良い場を提供できたとうれしく思いました。この流れを次回に繋がります。

## SDGs 学生フォーラム in ちば レポ

「SDGs 学生フォーラム in ちば」には、私はCIENの一員として企画の段階から参加しました。

第1部の各団体による活動発表では、千葉県を中心にさまざまな分野で活動が行われていることを知り、皆それぞれのアプローチの方法があることを学ぶ機会となりました。また意見交換では、学生はそれぞれの活動に関する質問をし合いながら、これからどんなことが出来るのかを話しました。

同じ学生ではありますが、学んでいる分野や活動拠点は人それぞれ違い、自分自身の活動を振り返る時間にもなりました。社会人の方は学生に向けて社会人という立場からどのようなサポートが出来るのかなどを話しました。互いに足りない部分を補い合うことでより良い活動に、未来づくりに繋がっていくことを実感しました。

第2部の交流会では、普段交わることのないさまざまな立場の方々が集まるこの時間をチャンスに「こんなサポートをしてもらいたい」「これについての意見を異なる立場の方から聞きたい」などを話しながら自由に交流をし、繋がりが広がる時間となりました。

「より良い未来をつくりたい。守っていききたいものがある。」あの時間、あの場には参加者の皆さんに共通する想いがあると感じました。同じ方向に向かっていても、そこまでの道のりは人それぞれでした。

手を取り合い、点と点がつながり大きな輪になったとき、皆さんの思いが形となって現れるのではないのでしょうか。今回の出会いが誰かの明日がちょっとだけ素敵になる、そんなきっかけとなればと願っています。

ち～ば国際教育ネットワーク CIEN (麗澤大学)  
今城 一夏



## 第4回 北拠点づくり会議

日 時：2023年1月27日（金）9：50～11：55

場 所：千葉市生涯学習センター研修室3 及びオンライン

参加者：22名（会場：12名 Zoom：10名）

ファシリテーター：石井雅章氏 神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授

主 催：NPO 法人環境パートナーシップちば

### 【ワークショップ-1】

拠点として一体感が感じられるテーマ\*から各自アクションを考え、出しました。

[\*くらしの視点。文化・祭りにつながる。学校との連携にキーマン。情報の可視化。現場（足元）での体験。対話と拠点。連携イメージを共有する活動風景（写真）。当事者のニーズに御用聞き。活動団体生態系マップ。]

### 【ワークショップ-2】

- ① 知恵と経験と関わりを「見える化する」
- ② 知恵と経験と関わりを「つなげる」
- ③ 知恵と経験と関わりを「引き継ぐ」

### 【まとめ】

W1での皆さんからの具体的なアイデアとして、

- ・エコメッセ等のイベントを「拠点」として活用し、発信していく
- ・メンバーのもつネットワーク（関係性）を活かす機会をつくる
- ・各団体の活動記録・報告ができるプラットフォームを用意する（どこに、誰に届ける？）
- ・見える化が引き継ぐことへのステップになるかも ・まずは活動団体のマッピング
- ・（中小）企業や学校などの駆け込み寺（相談場所）になる ・交流機会の提供
- ・お互いのメリットになるような ・世代を超えて知恵と経験をつないでいく

などが出ました。

これらのアイデアをもとに、知恵と経験と関わりを「見える化する」「つなげる」「引き継ぐ」を、より具体的な活動に繋げるための宿題が出されましたので、次回第5回会議（3/20）では、2023年度北拠点としての活動の方向がまとまることを期待しています。

## 第5回 北拠点づくり会議

日 時：2023年3月20日（月）9：30～11：40

場 所：千葉市生涯学習センター研修室3 オンライン

ファシリテーター：石井雅章氏

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授

出 席：会場：15名 オンライン8名

プログラム

（会場3グループ、オンライン1グループで協議）

WS 1：プラットフォームで目指すこと

WS 2：自分で考えてみた具体的なアイデア

WS 3：自身が関われそうなこと、できそうなこと



第4回会議で出されていた宿題のテーマを基に会場とオンラインで、話し合いしました。  
WS1では、活動している団体及び新しい（企業、若者）団体の紹介を入れたリストづくり。  
⇒団体情報に既に入っている団体は、団体間の連携・創出する。団体に入っていない団体と繋ぐには：・応援型・受け皿型・しかけ型・応援型・出前型（キャラバン）等多様な方法がある。  
WS2・3では、団体情報を得るために取材する。環境への関心が弱い人などへ音楽を活用するなどが出され、2023年度の北拠点の活動へと進みます。

# ESD プログラム体験会に参加して

## 【はじめに】

この度、環境パートナーシップちば主催の「五感を感じる森林浴 inner journey 十沖ノ島」のESDプログラム体験会（2023年3月7日）に参加し、日頃は地域資源（森林・海）に接することがないため、貴重な体験をさせていただきました。

## 【体験 1：大房岬公園】

海岸遊園地のティータイムでは、クイズ形式で自然に生息する食物を使った食べ物、飲み物を頂きました。最初は赤黒いつぶつぶの桑の実、次はドライフルーツで不思議な味。答えはランブータンの実、最後は温かいお茶でした。一口飲んで柑橘系のお茶と感じました。答えは、くろもじ茶でした。全てが新しい体験でした。

## 【体験 2：ホテル&リゾート南房総】

「海の豊かさを守ろう」について、砂浜のゴミから出たプラスチックで作るアートの世界の展示があり、こんな綺麗なアートが作れるくらいのプラスチックゴミが集まるなんて、脱プラスチックの取り組みが進んでいるのか心配！と感じました。

## 【体験 3：沖ノ島】

戦争遺跡である防空壕の存在に驚きました。暗い中を進み、海側に出た時に先生から「チーバくんの足元です」と言われた時、何故だかホッとした気持ちになりました。また台風の影響により緑が失われつつあることも体験の中で強く印象として残りました。

## 【最後に】

全てが初めてづくしで学ぶことが多く、日頃、企業内で循環型社会の形成に従事している自分としては、新しい分野での環境活動を見て、新鮮で充実していた事が印象として強く残り、環境問題の幅、知識も広げることができました。

今回の体験会でご指導頂きました先生方へ、本当にありがとうございました。改めて感謝の意を申し上げます。  
(とんがらし座・環境カウンセラー 小堀 功)



五感を取り戻した気がした！を表現



海を体感

# “SDGs・ESD ちば南拠点の会” 第4回会議

日時：2023年2月7日（火）10：00～12：00

場所：富山岩井コミュニティセンター

出席：8団体（10人）：NPO 法人南房総エコネット、安馬谷里山研究会、Olaga、房総野生生物研究所、（特非）たてやま・海辺の鑑定団、ホテル&リゾート南房総、南房総市環境保全課、NPO 環パちば

協議に入る前に、SDGs・ESD 公開セミナー（12/4）と第4回北拠点づくり会議の情報を共有し、Fry to Fry プロジェクト（資源循環型の脱炭素社会実現に向けて、廃食油から航空燃料を作るプロジェクト；南房総市近隣宿泊業界、日清（株）など連携）について、南拠点の会の方からお聞きしました。

## 【協議】

1. 2023年度へ向けて、出来るところから動き出してみる。

- ・若い人などつながりなくことは重要。若者は会の活動に縛られるのは苦手なので、お互い共感出来ることをみつける。⇒一緒にやってみる（地域の祭りなどは若者・よそ者・地域の人などが楽しくつながれる場でもある）
- ・地域とつながることが重要（海・山）
- ・（南房総の活動などが各地に広がっていることから）地域を知るエコツーリズムを検討。
- ・「SDGs フェスタ in 南房総（仮案）」・・・ ⇒開催出来る視点で考える。
- ・南拠点のHP 活用。 <https://chibabasesample2.wordpress.com/>

2. 南拠点の会のメンバーが関わる事業案内

①市民環境学習会 親子で楽しく学ぶ環境問題 ゴミ拾いイベントとプラゴミアート

開催日：2月23日（木）午後 場所：千倉保健センター

共催：南房総市環境保全課 NPO 法人南房総エコネット

②ESD プログラム体験会（主催：NPO 環パちば）

日時：3月7日（火）（千葉駅からバス使用） 場所：大房岬自然公園

プログラム：五感を感じる森林浴

## ESD 地域リーダー交流会 報告

2月28日（火）にオンラインでESD 地域リーダー交流会を開催しました。昨年は「ブラッシュアップ研修会」でしたが、今年は「ゆるくみんなでワイワイ話せたら」と、「交流会」となりました。13名の皆様、ご参加ありがとうございました。今回は、紙漉きのプログラムでお世話になった浦安市の小学校の山下先生が参加してくださったことで、少しいつもと空気が変わり学校と団体とのお付き合いや学校の事情など、とても盛り上がりました。

まずは全員が順番にプログラムにからめた自分の取組の紹介をしました。皆さんそれぞれのプログラムを思い出すと同時にその後を改めてお聞きして、少し懐かしい気持ちになりました。SDGs やごみ減量、生ごみたい肥の授業を小学校で行っている話や、三番瀬水槽や親子初めてハゼ釣り教室を行っている話、ホテルの里での里山活動、谷津田で元理科の先生と一緒に月2回行っている親子自然体験活動、いすみで行っているオーガニックでお米を作る授業、八千代市の小学校での「誰が印旛沼をよごしたの」などなど、いろいろありました。小学校の先生が参加されたせいか学校での授業の話も多かったです。

心に残っているのは、山下先生がおっしゃっていた「学校で体験活動を取り入れる際、リードする教員側がその際の体験活動の価値を理解しているのか。意味合いを理解しているか。どういう学びをさせたか、その学びに沿っているから意味のある活動になっていた。」「思いや願いがないと市民団体さんと手を取り合って質の高い活動にしていくのは難しい。打合せをする時間、余裕もお互い難しい中どうやっていけばいいのかな。」という話です。学校連携にもつながることで、また改めてお話をお伺いしたいと思いました。

お問合せ：特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

<https://kanpachiba.com/> e-mail: [info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com)

Tel: 090-8116-463

この事業は、地球環境基金の助成を受け実施しています



